

Ensemble 14

J. S. Bach

BWV 94, 108, 230, 84, 102

Ensemble 14 第22回演奏会

声楽 Ensemble 14

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

指揮 辻 秀幸

2014.6.1(日)14:00開演

於:浜離宮朝日ホール

ごあいさつ

ご来場くださいました皆様に心から御礼申し上げます！
基本的に合唱曲が冒頭と終曲にコラルがあるだけで、その間には様々な意味で超絶技巧のソロ曲の多いバッハの教会カンタータを、いかにしてアマチュア合唱団の演奏会に取り上げて貰えるだろうか・・・？ それは数十年前に一度あったバッハカンタータの演奏ブームの頃でさえも様々に考えていた問題でした。

そんな危惧をあっさりとしかも大胆に解決してくれたのがこのアンサンブル14の活動でした。「優秀なオケのメンバーさえお願いすれば、あとは様々な部分で助けられるし形にもしてくれるだろうから、ソロも含めてみんなで歌っちゃおうぜい!!」の大胆且つ図々しい発想は瞬く間にこのグループに浸透して行き、僅か16年の間に22回の演奏会を数える事と成りました！

そして本日より、その図々しさがソロカンタータの演奏という聖域へと足を踏み入れました！ アンサンブルグループであることが基本ですので、ソロカンタータといえども一人で歌い切る訳ではありませんが、この暴挙が皆様のお耳にはどのように届くでしょうか!? ただ、本当に

彼女ら、彼らは、プロとして活動する私が爪の垢を煎じて飲まねばならぬほど素晴らしい努力をしてくれています。このグループの活動が今後も決して臆する事無く10年20年と続いてくれることを願ってやみません。

Ensemble14 指揮者
辻 秀幸




本日は、Ensemble14（アンサンブル・フィアツェン）の演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

Ensemble14は、1998年8月に、バッハの『マタイ受難曲』の第2コーラスを歌おうとの呼びかけに応じて誕生した合唱団です。以来教会カンタータを中心に、一貫してバッハの声楽作品を歌い続けてきました。

今回のプログラムは、独唱はソプラノのみ、合唱は最後の1曲のみという構成の、ソプラノ用のソロカンタータ（84番）を含む教会カンタータ4作品とモテット1作品という、過去になくバラエティに富むものとなりました。

第1回演奏会以来、Ensemble14では、合唱だけでなく独唱曲も（いくつかの例外はありましたが）団員が歌うかたちを採っています。アマチュアの私たちにはやはり非常に難しい挑戦と承知しておりますが、団員が技術的に努力する機会として、また合唱・独唱を通した作品全体の流れを少しでも理解する一助になればと、辻先生、オーケストラの皆様、お客様の温かいご理解を頂き、私たちなりに真摯に取り組んできたつもりです。

とは言え、あくまで「合唱団」の演奏会に、ソロカンタータはさすがにどうだろうか？という思いがあり、これまで採り上げてきませんでした。しかし他の曲との兼ね合いと、ソプラノの人数が多い今回なら可能かもしれない、とお伺いをたてた私たちに、辻先生は懐深くも、「面白いと思います！」とご快諾くださったのです。

アマチュアの合唱団としてはなかなかできないプログラムに取り組めることに感謝しつつ、合唱・独唱とも精一杯演奏させていただきます。

最後になりましたが、笑いに溢れた練習のうちに、真摯で生き生きとした音楽作りへと導いてくださいます指揮者の辻秀幸先生、バッハ演奏のスペシャリスト揃いで、素晴らしい音楽で合唱を支えてくださるミレニウム・バッハ・アンサンブルの皆様、練習で献身的にサポートして下さる練習ピアニストの田城章子先生、そして今回のソリストオーディションで審査員を務めてくださいましたソプラノの星川美保子先生に、深く感謝申し上げます。

Ensemble14 代表
室橋 明美

Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ 第 94 番 「なぜこの世を気にかけることがあるでしょう」

Kantate "Was frag ich nach der Welt", BWV 94

(2) 木下 剛 Baß (3) 室橋 義明 Tenor (4) 寺崎 淳子 Alt
(5) 菅野 松佐登 Baß (6) 長澤 哲 Tenor (7) 佐藤 かおり Sopran

カンタータ 第 108 番 「私が去るのは、あなたたちのためなのです」

Kantate "Es ist euch gut, daß ich hingehe", BWV 108

(1) 武内 崇史 Baß (2) 中西 隆紀 Tenor (3) 橋元 正美 Tenor (5) 小林 良子 Alt

モテット 第 6 番 「主をたたえよ、全ての異教徒よ」

Motette "Lobet den Herrn, alle Heiden", BWV 230

～ Pause / 休憩 ～

カンタータ 第 84 番 「私は幸福に満たされています」

Kantate "Ich bin vergnügt mit meinem Glücke", BWV 84

(1) 子井野 真貴子 Sopran (2) 河野 優子 Sopran (3) 室橋 明美 Sopran (4) 椿山 芳 Sopran

カンタータ 第 102 番 「主よ、あなたの目は信仰を顧みてくださいます」

Kantate "Herr, deine Augen sehen nach dem Glauben", BWV 102

(2) 大内 良太郎 Baß (3) 小田 奈穂子 Alt (4) 大内 良太郎 Baß
(5) 中西 隆紀 Tenor (6) 竹内 望 Alt

BWV: Bach-Werke-Verzeichnis (バッハ作品総目録番号)

指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble14

楽曲解説・歌詞対訳

楽曲解説：中西 隆紀 歌詞対訳：室橋 明美

カンタータ第94番「なぜこの世を気にかけることができるでしょう」

Kantate "Was frag ich nach der Welt" BWV 94

三位一体節後第9日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

演奏会の最初を飾るカンタータでは、タイトルである「Was Frag Ich nach der Welt (なぜこの世を気にかけることができるでしょう)」という問いかけが、冒頭の合唱曲から始まって、レチタティーヴォ（語り）、アリア、最後のコーラル合唱に至るまで、何度も繰り返される。

冒頭合唱ではソプラノ・パートが上記の問いかけで始まるコーラル（讃美歌）の旋律を歌い、他のパートがそれを装飾する形になっている。また、その後のレチタティーヴォでもコーラルの歌詞や旋律が使われている。このように、カンタータを構成する楽曲が、ひとつのコーラルの歌詞と旋律に基づいて作曲されたカンタータを、コーラル・カンタータという。バッハは、ライプツィヒ聖トーマス教会のカントル（教会音楽家）に着任した1723年の初夏から、毎週のように礼拝用カンタータの作曲に精力的に取り組んだが、その後1年を経過した1724年の夏から1725年の復活祭まで、コーラル・カンタータを集中的に書いている。94番は、このコーラル・カンタータの連作の初期に当たる1724年8月6日三位一体節後第9日曜日の礼拝用に作

曲された。

明るい曲調で始まる冒頭合唱では、フルートの活躍が目につく。この直後作曲されたカンタータでは、同じようにフルートの活躍するカンタータが続いている(113番、78番、8番、130番、96番、180番、115番など)。この時期バッハはフルートの名手を抱えていたに違いない。

この後、第2曲から第7曲までソロの曲が続くが、そのうち、第2曲、第3曲、第5曲ではそれぞれ末尾に冒頭の問いかけがなされる。アリアは各パート1曲ずつで都合4曲あるが、いずれも個性に富み魅力的である。その中で唯一妙に明るいテノールのアリア（第6曲）は、弦楽の伴奏がこの世の空騒ぎを象徴するかのようで面白い。また、語りの中にコーラル旋律を織り交ぜた第3曲（テノール）、第5曲（バス）も興味深い。各曲では、当日の礼拝のテーマである「世の宝の拒絶」が歌われ、イエスだけが真の宝であるとの結論に導く。第8曲にあたる最後のコーラルは歌詞を変えて二度繰り返され、再び冒頭の問いかけでカンタータを締めくくる。

1. Chor(Choral)

**Was frag ich nach der Welt
Und allen ihren Schätzen,
Wenn ich mich nur an dir,
Mein Jesu, kann ergötzen!
Dich hab ich einzig mir
Zur Wollust vorgestellt,
Du, du bist meine Ruh:
Was frag ich nach der Welt!**

(Balthasar Kindermann 作のコーラル « Was frag ich nach der Welt »第1節)

1. コーラル合唱

**なぜこの世を気にかけることができるでしょう、
また、その全ての宝のことを。
私は、ただあなたにおいてのみ、
私のイエスよ、喜ぶことができるのですから！
私はあなたを、私にとってただひとつの
喜びとして思い浮かべてきました
あなたは、あなたこそ私の安らぎなのです。
なぜこの世を気にかけることができるでしょう！**

2. Arie (Baß)

Die Welt ist wie ein Rauch und Schatten,
der bald verschwindet und vergeht,
weil sie nur kurze Zeit besteht.
Wenn aber alles fällt und bricht,
bleibt Jesus meine Zuversicht,
an dem sich meine Seele hält.
Darum: was frag ich nach der Welt!

2. アリア（バス）

この世は煙や幻影のようなものであり、
すぐに消えて滅び去ってしまい、
ほんの短い間しか存在しないのです。
たとえ全てが倒れ、崩れ去ろうとも、
イエスは私の揺るぎない信頼であり、
私の魂のよりどころであるのです。
ですから、なぜこの世を気にかけることができるでしょう！

3. Choral & Rezitativ (Tenor)

**Die Welt sucht Ehr und Ruhm
Bei hoch erhabnen Leuten.**

Ein Stolzer baut die prächtigsten Paläste,
er sucht das höchste Ehrenamt,
er kleidet sich aufs beste
in Purpur, Gold, in Silber, Seid' und Samt.
Sein Name soll für allen
in jedem Teil der Welt erschallen.

Sein Hochmutsturm
soll durch die Luft bis an die Wolken dringen,
er trachtet nur nach hohen Dingen

**Und denkt nicht einmal dran,
Wie bald doch diese gleiten.**

Oft bläset eine shale Luft
den stolzen Leib auf einmal in die Gruft,
und da verschwindet alle Pracht,
womit der arme Erdenwurm
hier in der Welt so großen Staat gemacht.
Ach! solcher eitler Tand
wird weit von mir aus meiner Brust verbannt.

Dies aber, was mein Herz**Vor anderm rühmlich hält,**

was Christen wahren Ruhm und rechte Ehre gibet,
und was mein Geist,
der sich der Eitelkeit entreißt,
anstatt der Pracht und Hoffart liebet,

Ist Jesus nur allein,

und dieser soll's auch ewig sein.
Gesetzt, daß mich die Welt
darum vor töricht hält:

Was frag ich nach der Welt!

4. Arie (Alt)

Betörte Welt, betörte Welt!
Auch dein Reichtum, Gut und Geld
ist Betrug und falscher Schein.
Du magst den eitlen Mammon zählen,
ich will davor mir Jesum wählen;
Jesus, Jesus soll allein
meiner Seele Reichtum sein.
Betörte Welt, betörte Welt!

3. コラールとレチタティーヴォ (テノール)

この世は栄光と名誉を求めて**位の高い人々のもとに群がります。**

尊大な人は豪華きわまる宮殿を建て、
最高の名誉ある職を求め、
この上なくきらびやかに着飾ります
緋色に金色、銀色、絹やビロードの衣服で。
その人の名前は、全ての人々に
この世のすみずみにまで響き渡ると言われます。

彼の傲慢な鼻柱は
空を突き抜け、雲にまで達するほどです。
彼は、ただ高いものばかりを得ようと望み、
**そして全く考えることさえないのです
どれほどたやすく、そんな人々が滑り落ちるかを。**

しばしば、空虚な風が吹きつけ、
尊大な肉体を一気に墓穴へと落とし入れると、
あらゆる豪華さは消え去るのです
あわれな虫けらたる人間が
この世で盛大にひけらかした栄華もろとも。
ああ、このような虚しくつまらないものは
私のこの胸から遠く追いやられます。

けれども、私の心が**他の何よりも名誉に思うもの、**

キリスト者に真の誉れと真の栄光を与え、
そして私の霊、

虚栄心から身をふりほどいたこの霊が
豪華さや傲慢さに代えて愛するもの、

それはただ一人、イエスだけであり、

またこれこそは永遠に不滅なのです。

もしもこの世が私を

このことゆえに愚かとみなそうとも

なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!

(同 第3節)

4. アリア (アルト)

惑わされた世よ、惑わされた世よ!
その富も、宝も財産も
まやかしてあり、偽りの見せかけにすぎないのです。
あなたは虚しい金勘定を好みますが、
私はその代わりにイエスを選ぶでしょう。
イエス、ただイエスだけが、
私の魂の富であるのです。
惑わされた世よ、惑わされた世よ!

※歌詞および対訳中の太字部分は、バッハが作曲した当時、既に教会で一般的に歌われていたコラール(讃美歌)の歌詞と旋律が用いられている箇所です。

5. Choral & Rezitativ (Baß)

Die Welt bekümmert sich.

Was muß doch wohl der Kummer sein?

O Torheit! dieses macht ihr Pein:

Im Fall sie wird verachtet.

Welt, schäme dich!

Gott hat dich ja so sehr geliebet,

daß er sein eingebornes Kind

vor deine Sünd

zur größten Schmach um deine Ehre gibet,

und du willst nicht um Jesu willen leiden?

Die Traurigkeit der Welt ist niemals größer,

Als wenn man ihr mit List

Nach ihren Ehren trachtet.

Es ist ja besser,

Ich trage Christi Schmach,

So lang es ihm gefällt.

Es ist ja nur ein Leiden dieser Zeit.

Ich weiß gewiß, daß mich die Ewigkeit

dafür mit Preis und Ehren krönet.

Ob mich die Welt

verspottet und verhöhnet,

ob sie mich gleich verächtlich hält,

Wenn mich mein Jesus ehrt:

Was frag ich nach der Welt!

6. Arie (Tenor)

Die Welt kann ihre Lust und Freud,

das Blendwerk schnöder Eitelkeit,

nicht hoch genug erhöhen.

Sie wühlt, nur gelben Kot zu finden,

gleich einem Maulwurf in den Gründen

und läßt dafür den Himmel stehen.

7. Arie (Sopran)

Es halt es mit der blinden Welt,

wer nichts auf seine Seele hält,

mir ekelt vor der Erden.

Ich will nur meinen Jesum lieben

und mich in Buß und Glauben üben,

so kann ich reich und selig werden.

8. Choral

Was frag ich nach der Welt!

Im Hui muß sie verschwinden,

Ihr Ansehn kann durchaus

Den blassen Tod nicht binden.

Die Güter müssen fort,

5. コラールとレチタティーヴォ (バス)

この世は思い煩うのです。

だがいったい、その悩みとは何なのか?

おお、愚かな!こんなことで苦悩するとは、

侮蔑されたらどうしようなどと。

世よ、恥を知りなさい!

神はあなたをととても愛してくださり、

自分の独り子を

あなたの罪のゆえに

この上ない辱めへと引渡し、あなたの名誉を守られたのです。

それなのにあなたは、イエスのために苦しむつもりはないと?

この世にとって、何よりも大きな悲しみは

人が策略をめぐらして

自分の名誉をつけねらうことなのです。

それよりもずっと良いはずですから

私はキリストの辱めを負います

それが彼の心にかなう限りずっと。

それはただこの世にある間の苦しみにすぎないのです。

私は確信しています、永遠の御国が

それに代えて、賞賛と誉れの冠を私に授けてくれることを。

たとえこの世が私を

馬鹿にし、嘲笑しようとも、

たとえ私を侮蔑しようとも、

イエスが私を大切に思ってくださいなら

なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!

(同 第5節)

6. アリア (テノール)

この世はその快樂と歓びを、

けがらわしい虚栄のまやかしかであるそれらを、

高くほめあげてとどまるところを知りません。

この世は、ただ黄色い土くれを手に入れようと

もぐらのように地中を掘りあさるばかりで、

天をかえりみようともしないのです。

7. アリア (ソプラノ)

目のくらんだこの世にすり寄っていればよいのです

自分の魂のことを何ひとつ気につけない人は。

私には地上のことは忌まわしいばかりです。

私はただ、私のイエスだけを愛し

そして悔い改めと信仰の修練に励みます

そうすれば、私は豊かで幸せになれるのです。

8. コラール

なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!

あっという間にそれは消えてなくなり、

この世の名声も決して

青ざめた死を縛りつけることはできないのです。

この世の財宝は失われ、

Und alle Lust verfällt;
Bleibt Jesus nur bei mir:
Was frag ich nach der Welt!

全ての快樂も尽き果ててしまいます。
ただイエスだけは、私のそばにとどまってください。
なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!

Was frag ich nach der Welt!
Mein Jesus ist mein Leben,
Mein Schatz, mein Eigentum,
Dem ich mich ganz ergeben,
Mein ganzes Himmelreich
Und was mir sonst gefällt.
Drum sag ich noch einmal:
Was frag ich nach der Welt!

なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!
私のイエスは、私の命、
私の宝、私の財産であり、
私はその方に全身全霊で従います。
私の天の全てにして、
さらにまた、私を喜ばせてくださる方なのです。
ですから私はもう一度言いましょう、
なぜこの世を気にかけることがあるでしょう!

(同 第 7,8 節)

カンタータ第 108 番「私が去るのは、あなたたちのためなのです」

Kantate "Es ist euch gut, daß ich hingehe" BWV 108

復活祭後第 4 日曜日のためのカンタータ

歌詞：Christiane Marianne von Ziegler

このカンタータは1725年4月29日、教会の暦で復活祭後第4日曜日の礼拝用に作曲された。教会暦ではキリストが十字架にかかり三日目に甦ったことを祝う復活祭が、クリスマスと並ぶ大きな祝日であり、その後5週間半(40日)後の木曜日にキリストが天に昇ったとされる昇天祭、さらにその10日後の日曜日に、三位一体のひとつである聖霊がキリストの弟子たちの所に降臨したことを記念する聖霊降臨祭が続く。

復活祭はいわゆる移動祝日で、春分の日後に来る満月の直後の日曜日と定められている。今年は4月20日がそれに当たる。ちなみに去年は3月31日、来年は4月5日と3月下旬から遅い時は4月下旬まで年によって変化する。このように移動祝日である復活祭を起点に定められている昇天祭、聖霊降臨祭もまた移動祝日となる。復活祭後第4日曜日は昇天祭・聖霊降臨祭に近く、礼拝でも聖書のそれに関係する箇所が読まれる。冒頭のバスのアリアで歌われる「私が去る」というのは「キリストが受難と復活の後、天に昇ること」であり、「(その代わりに)私が遣わす」というのは「聖霊」のことである。

ところで、このカンタータ108番は冒頭合唱がなくアリアで始まり、途中4曲目に合唱曲が置かれている。こういう形のカンタータは、バッハの現存する200曲近い教会カンタータの中では数曲を数えるだけの珍しいものである。ツィーグラウの台本は、ヨハネ福音書の中からキリストが弟子たちに「私が去るのは、あなたたちのためなのだ。」と語るところの引用から始まっている。キリストのセリフを託されるのはバス・パートと決まっているので、必然的にこのカンタータは、バス・ソロのアリアで始めることになったのだろう。このバスのアリアはオーボエのメロディーによって歌われるが、ややゆったりした歩みを感じさせる曲調の中にキリストの威厳が感じられる。

このキリストの言葉を受ける第2曲のテノールのアリアはうって変わって、やや緊迫した雰囲気が始まる。テノールはキリストの「私は去る」という言葉に対して、弟子もしくは信者の心情を抒情的に歌い上げる。それにしても、この伴奏バイオリンの旋律の美しさはどうだろう。バッハのカンタータのアリアでは、主役であるソロ歌手の歌う旋律を凌駕するほど美しい伴奏が添えられていることが多い。また、その伴奏楽器も今回のバイオリンの他、フルート、オーボエ、チェロ、トランペットなど多彩である。こんなところもバッハのカンタータの素晴らしいところだと感じる。

アリアの後、引き続き(と言っても私たちの演奏ではソリストが交代するが)、テノール・ソロが「ああ、聖霊はすでにここにいらしてはいないのですか?」と歌って、続く合唱を導き出す。続く合唱曲の歌詞は冒頭曲と同じくヨハネ福音書の引用で、大きく3つの部分からなり、それぞれバス、テノール、アルトから歌いだす。各部分はいずれも、先行するパートが歌いだす旋律を残りのパートが順次追いかけるフーガになっていて、偉大なバッハを前におこがましいが、中々よく出来ていると思う。合唱の各パートが随所でそれぞれの役割を持って、流れるような曲調の変化を作り出している。バッハにはこのように密度の濃い、緻密に作られた合唱曲が多く存在する。こういった曲を歌うのは合唱団として無上の楽しみだ。ただ、いつも思うのだが、このような「よく出来た曲」を1回しか演奏せず終わってしまうのは非常に残念なことだ。何度も繰り返して聴いて初めてこの合唱曲の魅力が本当にわかってくると思う。

合唱曲に続いて、弦楽の伴奏で歌われるメランコリックなアルトのアリアがあり、終曲の四声のコラールは、慰めに満ちて最後は長調に転調して終わる。

1. Arie (Baß)

Es ist euch gut, daß ich hingehe;
denn so ich nicht hingehe,
kömmt der Tröster nicht zu euch.
So ich aber gehe, will ich ihn zu euch senden.

2. Arie (Tenor)

Mich kann kein Zweifel stören,
auf dein Wort, Herr, zu hören.
Ich glaube, gehst du fort,
so kann ich mich getrösten,
daß ich zu den Erlösten
komm an gewünschten Port.

3. Rezitativ (Tenor)

Dein Geist wird mich also regieren,
daß ich auf rechter Bahne geh;
durch deinen Hingang kommt er ja zu mir,
ich frage sorgenvoll:
Ach, ist er nicht schon hier?

4. Chor

Wenn aber jener, der Geist der Wahrheit, kommen wird,
der wird euch in alle Wahrheit leiten.
Denn er wird nicht von ihm selber reden,
sondern was er hören wird, das wird er reden;
und was zukünftig ist, wird er verkündigen.

5. Arie (Alt)

Was mein Herz von dir begehrt,
ach, das wird mir wohl gewährt.
Überschütte mich mit Segen,
führe mich auf deinen Wegen,
daß ich in der Ewigkeit
schaue deine Herrlichkeit!

6. Choral

**Dein Geist, den Gott vom Himmel gibst,
Der leitet alles, was ihn liebt,
Auf wohl gebähntem Wege.
Er setzt und richtet unsren Fuß,
Daß er nicht anders treten muß,
Als wo man findet den Segen.**

1. アリア (バス)

私が去るのは、あなたたちのためなのだ
なぜなら私が去らなければ、
慰め主は、あなたたちのもつとに來ないのだから。
だが私が去れば、私は彼をあなたたちに遣わそう。

(『ヨハネによる福音書』16章7節)

2. アリア (テノール)

どんな疑念も妨げることばできません
あなたの言葉に、主よ、私が耳を傾けるのを。
私は信じています、あなたが立ち去られることで
私は慰められ、
救われた人々の中に加わって
望んでいた港へとたどり着けるのだと。

3. レチタティーヴォ (テノール)

あなたの御霊は私を統治してください
私が正しい道へと進めるように。
あなたが去られることによって、御霊が私に來てくださいるのです
私はひどく氣をもんで尋ねます。
ああ、御霊はすでにここにいらしてはいないのですか?と。

4. 合唱

眞実の靈たるあの方が來てくだされば、
その方は、あなたたちをあらゆる眞理へと導いてくださるでしょう。
その方は自らのことを語るのではなく、
自分の聞いたことについて語り、
そして來たるべきことについて告げ知らせるのです。

(『ヨハネによる福音書』16章13節)

5. アリア (アルト)

私の心があなたに求めるもの、
ああ、それがきつと私の望みをかなえてくださるでしょう。
私の上に祝福をそそぎ、
私をあなたの道へと導いてください
私が永遠の御国で
あなたの榮光を目の前にするために!

6. コラール

**神が天から与えてくださるあなたの御霊は、
導いてくださいます、神を愛する全てのものを
十分に踏み固められた道へと。
御霊は私たちの足を正しく定めてくださいます
この足が他の道へと進むことのないように、
祝福に會える道だけを進むように。**

(Paul Gerhardt 作のコラール « Gott Vater, sende deinen Geist »第10節)

モテット第6番「主をたたえよ、全ての異教徒よ」

Motette "Lobet den Herrn, alle Heiden" BWV 230

これまで Ensemble14 の演奏会で取り上げたモテットは第3番 (BWV 227) だけで、今回の第6番が2曲目である。他の4曲 (第1番、第2番、第4番、第5番) は二重合唱が必要なので、少人数の合唱団ではなかなか取り上げにくい。

バッハの時代、モテットは古い形式の音楽になりつつあり、教会での礼拝用音楽はカンタータが主流となっていた。したがって、バッハの作曲したモテットの数はカンタータに比べてずっと少ない。また、モテットは葬儀など特別な機会のために作曲された合唱作品だったが、ほとんどは具体

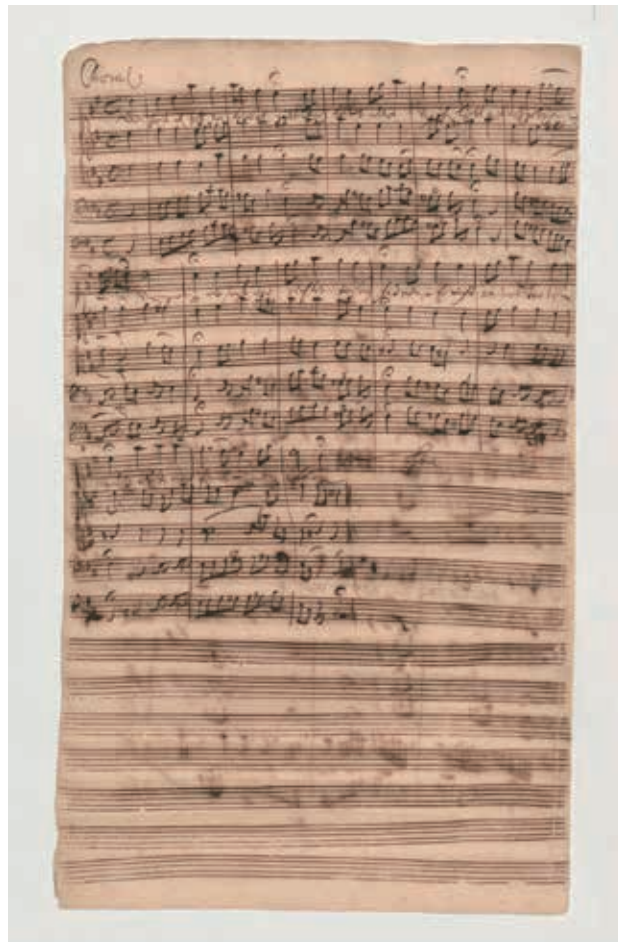
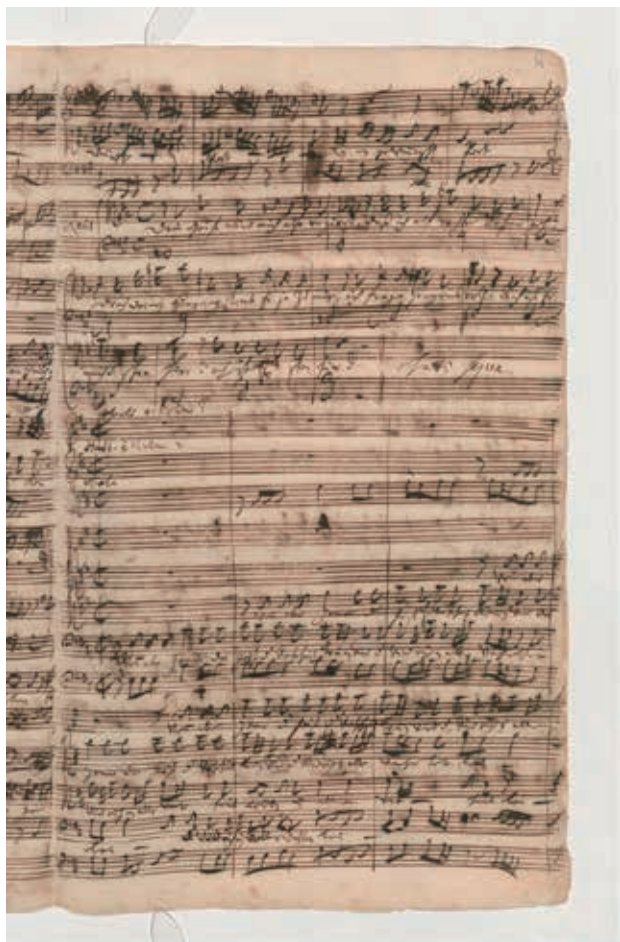
的な用途が不明である。しかも、この第6番とされるモテットの場合、バッハの真作かどうかは今でもはっきりしていないのだ。ただ、偽作の疑いがあるというだけで、この曲を取り上げないのはいかにももったいないと思う。それだけ合唱団にとっても魅力のある音楽だ。

曲は大きく3つの部分に分かれる。各パートが順に軽やかなリズムの上向音形で「主をたたえよ」と歌い始める部分、ややテンポを落として厳粛に「主の恩寵と真理が・・・」と歌う部分、そして、最後の軽快で華やかな「アレルヤ!」である。

Lobet den Herrn, alle Heiden,
und preiset ihn, alle Völker!
Denn seine Gnade und Wahrheit
waltet über uns in Ewigkeit.
Alleluja.

主をたたえよ、全ての異教徒よ
主を賛美せよ、全ての民よ!
主の恩寵と真理が
私たちが永遠に統治するのですから。
アレルヤ!

(『詩編』117編 1～2節)



カンタータ第108番の自筆譜

カンタータ第 84 番 「私は幸福に満たされています」

Kantate "Ich bin vergnügt mit meinem Glücke" BWV 84

復活祭前第 9 日曜日のためのカンタータ

歌詞：Christian Friedrich Henrici (Picander)

バッハのカンタータは冒頭に多声合唱を置き、アリアやレチタティーヴォなどのソロ曲を挟んで最後にコラールで締めくくる形が一般的である。ただ、中には一人のソリストが歌うソロ・カンタータもいくつか存在する。バス・ソロのためのカンタータ 82 番、同 56 番、テノール・ソロのためのカンタータ 55 番などが有名で、ソプラノ用ではカンタータ 199 番や結婚式用の世俗カンタータ 202 番などが知られている。これらの中には最後に四声のコラールが付いているものもある。

バッハは 1726 年の夏から独唱カンタータを作曲するようになり、前述の 55 番、56 番、82 番などもこの時期に作られた。この 84 番のカンタータは、その一連の作品のしんがりとして 1727 年 2 月 9 日の日曜礼拝用に作曲された。この後、受難節でカンタータが演奏されない期間を経て、同年 4 月 11 日の聖金曜日にマタイ受難曲が初演されたという。つまりこのカンタータは、あの人類の至宝ともいわれるマタイ受難曲の直前に作曲されたカンタータなのだ。

カンタータ 84 番では、2 曲のアリアとレチタティーヴォが交互に歌われ、最後に四声のコラール合唱が歌われる。2 曲のアリアはいずれも、神の与えてくださる物への満足と感謝の喜びを歌っているが、その曲想は対照的である。ただ、第 1 曲のアリアでは付点音符のリズムで喜びを控えめに表現しているのに対して、第 3 曲のアリアでは早いテンポや歌唱法によって、より直接的に喜びが表現されているという違いに過ぎない。この 2 曲については、聴衆のみなさんも好みが変われるかも知れない。例えばマタイ受難曲のソプラノのアリアでは、第 2 部で群衆の「十字架に付けよ」という叫びの後に歌われる、フルート伴奏の美しい「Aus Liebe will mein Heiland sterben (愛ゆえにわが主は死に給う)」が一番印象的かもしれないが、第 1 部にある明るい曲調の「Ich will dir mein Herze schenken (私の心をあなたに捧げましょう)」も捨てがたいというファンの方もいるだろう。同様にこのカンタータの 2 つのアリアはどちらも魅力的で、甲乙付け難いと思う。

1. Arie (Sopran)

Ich bin vergnügt mit meinem Glücke,
das mir der liebe Gott beschert.

Soll ich nicht reiche Fülle haben,
so dank ich ihm vor kleine Gaben
und bin auch nicht derselben wert.

2. Rezitativ (Sopran)

Gott ist mir ja nichts schuldig,
und wenn er mir was gibt,
so zeigt er mir, daß er mich liebt;
ich kann mir nichts bei ihm verdienen,
denn was ich tu, ist meine Pflicht.
Ja! wenn mein Tun gleich noch so gut geschienen,
so hab ich doch nichts Rechtes ausgericht'.
Doch ist der Mensch so ungeduldig,
daß er sich oft betrübt,
wenn ihm der liebe Gott nicht überflüssig gibt.
Hat er uns nicht so lange Zeit
umsonst ernähret und gekleidet
und will uns einsten seliglich
in seine Herrlichkeit erhöh'n?

1. アリア (ソプラノ)

私は幸福に満たされています
愛する神が私に授けてくださった幸福に。
私は豊かな富を得ることはなくとも、
神のささやかな贈り物に感謝しています
私は、それに見合う価値もない者なのですから。

2. レチタティーヴォ (ソプラノ)

神は私に何ひとつ負うところはありません
神は私に与えてくださることで
示しておられるのです、私を愛して下さっていることを。
私は神の御許に、何ひとつ功を積むことはできません
私のなすことは、自分の義務に過ぎないのですから。
そうです! 私の行いがどんなに善いことのように見えても、
私は正しいことを何ひとつ成し遂げてはいないのです。
ですが、人間はあまりにもせっかちで、
たびたび悲しみにくれるのです
愛する神が、自分にあり余るほど与えてくれないと。
神は私たちをこんなにも長い間、
無償で養い、衣服を着させてくださったではありませんか
そして、いつの日か私たちを至福のうちに
栄光へと引き上げてくださるのではないですか?

Es ist genug vor mich,
daß ich nicht hungrig darf zu Bette gehn.

私は十分なのです、
空腹のまま、眠りにつかずにすむのなら。

3. Arie (Sopran)

Ich esse mit Freuden mein weniges Brot
und gönne dem Nächsten von Herzen das Seine.

Ein ruhig Gewissen, ein fröhlicher Geist,
ein dankbares Herze, das lobet und preist,
vermehret den Segen, verzuckert die Not.

3. アリア (ソプラノ)

私は喜びとともに自分のわずかなパンを食べ、
そして、隣人が神から与えられたものを心から喜びます。

安らかな良心、喜ばしげな霊、
感謝する心、神をたたえ、賛美するそれらが、
祝福を増し、苦しみをやわらげるのです。

4. Rezitativ (Sopran)

Im Schweiß meines Angesichts
will ich indes mein Brot genießen,
und wenn mein Lebenslauf,
mein Lebensabend wird beschließen,
so teilt mir Gott den Groschen aus,
da steht der Himmel drauf.

O! wenn ich diese Gabe
zu meinem Gnadenlohne habe,
so brauch ich weiter nichts.

4. レチタティーヴォ (ソプラノ)

私は額に汗して
自分のパンを味わいましょう
そして、私のこれまでの人生が
たそがれを迎え、終わろうとする時、
神はわずかばかりの銀貨を与えてくださり、
そして目指す天は、すぐそこにあるのです。

おお、私がこの贈り物を
恵みの報酬として手にできるのなら、
私は、他にはもう何も要らないのです。

5. Choral

**Ich leb indes in dir vergnüget
Und sterb ohn alle Kummernis,
Mir gnüget, wie es mein Gott füget,
Ich glaub und bin es ganz gewiß:
Durch deine Gnad und Christi Blut
Machst du's mit meinem Ende gut.**

(Ämilie Juliane von Schwarzburg-Rudolstadt 作のコラール ≪ Wer weiß, wie nahe mir mein Ende ≫ 第 12 節)

5. コラール

私はあなたの中で満たされたままに生き、
そして何の悲しみも憂いもなく死ぬのです。
私は満ち足りています、神がはからってくださるままに、
私はそのことを心から確信しているのです。
あなたの恵みとキリストの血によって
あなたは私の最期を善きものとしてくださるのです。

カンタータ 102 番 「主よ、あなたの目は信仰を顧みてくださいます」

Kantate "Herr, deine Augen sehen nach dem Glauben" BWV 102

三位一体節後第 10 日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

このカンタータは1726年8月25日、三位一体節後第10日曜日の礼拝用に書かれた。カンタータ84番の解説で述べた、バッハが独唱カンタータの作曲に興味を持った時期に当たる。また、このカンタータの合唱やアリアのうち何曲かは、のちに作曲された小ミサ曲（ミサ・ブレヴィス）に転用されている。いわゆるパロディーである。

冒頭合唱はト短調の小ミサ曲（BWV 235）の最初の合唱曲「キリエ・エレイソン」に転用された。この小ミサ曲はバッハを歌う合唱団では比較的良好に取り上げられ、日本では少なくともこのカンタータ102番より聴く機会が多いと思われる。筆者もこれまでいくつかの合唱団でト短調ミサを歌ったことがある。今回この102番の合唱に取り組んでみて、バッハのパロディーのうまさ、見事に改めて感心した。例えば、合唱の出だし、カンタータでは「主よ、あなたの目は信仰を顧みてくださいます！」と歌うが、「Herr（主よ）」と四声で呼びかけ、続いて「deine Augen（あなたの目は）・・・」の部分を実・パートが引き継いで歌う。これを小ミサ曲のキリエ・エレイソンでは、四声で「キリエ」と歌い、やはり実だけ「エレイソン」と続けて歌う。小ミサ曲のこの部分は、オリジナル曲に別の歌詞を当てはめたという感じが全くしない。私のように先に転用先の小ミサ曲を知っていて、後から原曲の102番を聞くと、え？こっちが原曲だったの！と思ってしまうぐらい、転用がうまくなされている。

同じように、美しいフルートの伴奏にのって歌われる

第5曲のテノールのアリアは、ヘ長調の小ミサ曲（BWV 233）に実のアリアとして転用された。この転用においては、最初の音程が激しく上下する「恐れおのきなさい」と歌う部分をマイルドにして「主のみ聖なり」という歌詞を付けている。このケースでは歌詞の内容がかなり異なるために、冒頭合唱の転用と比べると音符をかなりいじって対応している。受ける印象がかなり異なり、注意して聞かないとパロディーだと気付かないくらいだ。興味を持たれた方は、パロディー曲の方もCDなどで是非聴いてみてほしい。

このカンタータのテーマは「悔い改め」である。冒頭合唱では、旧約聖書のエレミア書にある「頑なに改心しない人々」のことが歌われる。フーガを多用した密度の濃いスケールの大きい合唱曲だ。その後2つのレチタティーヴォの間に3曲のアリア、アリオソが歌われる。このうち、悔い改めを忘れた魂に襲いかかる苦難を描いた第3曲の実のアリアも第5曲と同じく、小ミサ曲へ長調に転用された。このように多くの曲を転用したということは、バッハはこのカンタータがとても気に入っていたのだろう。

最後に置かれているコーラル合唱は、一刻も早い悔い改めを勧める。「今日は元気な人でも、明日死ぬこともあるのです」という歌詞は、筆者の年になると身に詰まされる言葉である。当時礼拝に参加した人々も、2回繰り返されるコーラル旋律を聴いて、早く悔い改めなくてはと思ったことだろう。そういう気持ちにさせるコーラルである。

Erster Teil

1. Chor

Herr, deine Augen sehen nach dem Glauben!
Du schlägest sie, aber sie fühlen es nicht,
du plagest sie, aber sie bessern sich nicht.
Sie haben ein härter Angesicht denn ein Fels
und wollen sich nicht bekehren.

2. Rezitativ (Baß)

Wo ist das Ebenbild, das Gott uns eingepreget,
wenn der verkehrte Will sich ihm zuwider leget?
Wo ist die Kraft von seinem Wort,
wenn alle Besserung weicht aus dem Herzen fort?
Der Höchste sucht uns
durch Sanftmut zwar zu zähmen,
ob der verirrt Geist sich wollte noch bequemem;
doch, fährt er fort in dem verstockten Sinn,
so gibt er ihn ins Herzens Dünkel hin.

第1部

1. 合唱

主よ、あなたの目は信仰を顧みてくださいます！
あなたは彼らを打ちます、しかし彼らはそれを感じません
あなたは彼らを苦しめます、しかし彼らは改心しないのです。
彼らの顔つきは、岩よりも頑なで、
そして心を入れ替えようとしません。
(『エレミア書』5章3節)

2. レチタティーヴォ (バス)

どこにいるというのでしょうか？神が私たちに刻み込んだ似姿は、
ねじまがった意志が神に背き、倒れる時に。
神の御言葉の力はどこにあるというのでしょうか？
自身を改める思いが、ことごとく人々の心から消えうせている時に。
至高者たる神は、私たちに
その温かさと導こうと努めてくださいます
たとえ、道を誤った霊がようやく渋々と従うのだとしても。
ですが、頑なな心を持ち続けるなら、
神はその人を慢心するにまかせて、見放してしまうのです。

3. Arie (Alt)

Weh der Seele, die den Schaden
nicht mehr kennt
und die Straf auf sich zu laden,
störrig rennt,
ja, von ihres Gottes Gnaden
selbst sich trennt.

4. Arioso (Baß)

Verachtest du den Reichtum seiner Gnade,
Geduld und Langmütigkeit?
Weißest du nicht, daß dich Gottes Güte
zur Buße locket?
Du aber nach deinem verstockten und unbußfertigen Herzen
häufest dir selbst den Zorn auf den Tag des Zorns
und der Offenbarung des gerechten Gerichts Gottes.

Zweiter Teil

5. Arie (Tenor)

Erschrecke doch,
du allzu sichere Seele!
Denk, was dich würdig zähle
der Sünden Joch.
Die Gottes Langmut geht auf einem Fuß von Blei,
damit der Zorn hernach dir desto schwerer sei.

6. Rezitativ (Alt)

Beim Warten ist Gefahr;
willst du die Zeit verlieren?
Der Gott, der ehemals gnädig war,
kann leichtlich dich vor seinen Richtstuhl führen.
Wo bleibt sodann die Buße? Es ist ein Augenblick,
der Zeit und Ewigkeit, der Leib und Seele scheidet.
Verblendter Sinn, ach kehre doch zurück,
daß dich dieselbe Stund nicht finde unbereitet!

7. Choral

Heut lebst du, heut bekehre dich,
Eh morgen kömmt, kann's ändern sich;
Wer heut ist frisch, gesund und rot,
Ist morgen krank, ja wohl gar tot.
So du nun stirbest ohne Buß,
Dein Leib und Seel dort brennen muß.

Hilf, o Herr Jesu, hilf du mir,
Daß ich noch heute komm zu dir
Und Buße tu den Augenblick,
Eh mich der schnelle Tod hinrück,
Auf daß ich heut und jederzeit
Zu meiner Heimfahrt sei bereit.

(Johann Heermann 作のコーラル « So wahr ich lebe, spricht der Gott »第 6,7 節)

3. アリア (アルト)

災いがあるでしょう、自分の傷さえ
もはやわからなくなってしまった魂に
そして罪を自分に招くべく
強情に突き進み、
さらには、神の恵みから
自分自身を遠ざけている魂に。

4. アリオーソ (バス)

あなたは軽んじるのですか? 神の恵みと
忍耐、そして寛容の豊かさを。
わからないのですか? 神の慈悲があなたを
悔い改めへと誘(いざな) っただきっているのが。
あなたは、頑なで悔い改めることのない心で
自ら神の怒りを積み重ねているのです、怒りの日に向けて、
そして神の正しき裁きが明らかにされる日に向けて。
(『ローマ人への手紙』2章4～5節)

第2部

5. アリア (テノール)

恐れおののきなさい、
あまりにも安心しきった魂よ!
考えなさい、自分がどれほどの数の
罪のくびきを受けるにふさわしいかを。
神の寛容の足取りは、鉛の足で歩むがごとくであり、
後に来る神の怒りは、あなたにいつそう重く厳しいものとなるのです。

6. レチタティーヴォ (アルト)

待っている間にも、危険はあるのです。
あなたは時間を無駄にするつもりなのですか?
かつては恵み深かった神は、
あなたをたやすく、彼の裁きの座に連れて行くこともできるのです。
どこに悔い改めをする余地があるでしょう? 一瞬のことなのです、
時間と永遠、そして肉体と魂が分かたれるのは。
目のくらんだ心よ、ああ、どうか戻ってきなさい、
その瞬間が、備えのできていないあなたを見つけることがないように。

7. コーラル

今日生きているなら、今日心を入れ替えなさい。
明日が来る前に、変わってしまうこともあるかもしれません。
今日は生き生きと健康で、顔色が良い人でも、
明日は病気になり、ともすれば死ぬこともあり得るのです。
ですから、もしあなたが悔い改めることなく死ねば、
あなたの肉体と魂は、そこで焼かれるしかないのです。

助けてください、主イエスよ、私を助けてください
私が今日のうちにもあなたのもとに行き、
そして、まさにその瞬間に悔い改められるように、
突然の死が私を押しやる、その前に。
私が今日、そしていかなる時にも
天へと帰る備えができてるように。

■指揮 辻 秀幸

Ensemble14 指揮者。

幼少よりヴァイオリン・ピアノ・フルート・金管楽器・作曲を学び、東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。

1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グッアリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に

各地でユニークなりサイトル活動を展開し、オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・指揮者として、その活動は常に注目を集めている。

現在指導に当たっているアマチュア合唱団は13団体を数える。洗足学園音楽大学客員教授、日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟理事、アンサンブルBWV2001メンバー。共著に「わかって歌おう－レクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

※ 辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

ヴァイオリン I : 大西 律子 *	ヴァイオリン II : 磯田 ひろみ	ヴァイオラ : 鈴木 友紀子
チェロ : 高群 輝夫	コントラバス : 寺田 和正	ファゴット : 笹崎 雅通
フルート : 三枝 朝子	オーボエ I : 多田 敦美	オーボエ II : 若木 麻有
オルガン : 能登 伊津子		* コンサートミストレス

■声楽 Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ. S. バッハのカンタータ等を歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内オーディションにて選出し、プロのオーケストラ(主に現代楽器)と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動している。

※ Ensemble 14 公式サイト <http://www.ensemble14.org>

E-Mail info@ensemble14.org

指揮者 : 辻 秀幸	練習ピアニスト : 田城 章子
代表 : 室橋 明美	副代表 : 武内 崇史、小林 尚弘、柿原 紀子
練習指揮者 : 木下 剛、小田 奈穂子、室橋 明美	

■ Ensemble 14 出演メンバー

ソプラノ (Sopran)		アルト (Alt)		テナー (Tenor)	バス (Baß)
荒井 舞	高橋 磯美	Jesse Astalos	竹内 望	長澤 哲	大内 良太郎
伊藤 泰子	椿山 芳	上田 暁子	寺崎 淳子	中西 隆紀	木下 剛
大軒 京子	中阪 理津子	小田 奈穂子	冨樫 典子	橋元 正美	小林 尚弘
河野 優子	橋元 文子	改田 晶子	中井 杏瞳	室橋 義明	菅野 松佐登
川村 昌子	原田 篤子	柿原 紀子	名倉 芳実		武内 崇史
子井野 真貴子	三上 香子	小林 愛子	山形 可奈子		次田 章
佐藤 かおり	湊 佳代	小林 良子	頼 甲子		中神 康一
菅野 総子	室橋 明美				

■ これまでの演奏 (抜粋) 作曲者: J. S. バッハ

- 1999年 4月 マタイ受難曲 抜粋演奏 (ピアノ伴奏) に、「マタイを歌う会」とともに出演 (日本基督教団奥沢教会)
- 1999年 9月 第1回演奏会 カンタータ 第106番、第150番、第155番 (ルーテル市ヶ谷センター)
- 2000年 4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演 (日本基督教団 田園調布教会)
- 2003年 5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲 BWV 245 (津田ホール)
- 2005年 9月 第10回演奏会 マタイ受難曲 BWV 244 (日本大学カザルスホール)
- 2010年 7月 第16回演奏会 ミサ曲口短調 BWV 232 (紀尾井ホール)
- 2011年 10月 第18回演奏会 カンタータ 第45番、第80番、第103番、第180番 (第一生命ホール)
- 2012年 7月 第19回演奏会 カンタータ 第3番、第96番、第113番 (川崎市高津市民館大ホール)
- 2013年 2月 第20回演奏会 カンタータ 第21番、第38番、第137番 (浜離宮朝日ホール)
- 2013年 10月 第21回演奏会 カンタータ 第9番、第67番、第115番、第176番 (津田ホール)

一覧 (BWV の数字に対応。赤字がこれまでの演奏曲)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249											

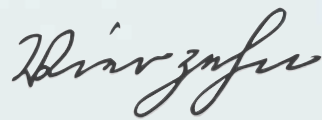
Ensemble14 第22回演奏会プログラム

発行日: 2014年6月1日

発行者: Ensemble14

©無断転載・複製を禁じます。

次回 第23回演奏会のご案内
2015年2月8日(日)紀尾井ホール
J. S. バッハ 作曲
カンタータ 第33番、第43番、第71番、第74番



主催 Ensemble 14

後援 **JCDA** 日本合唱指揮者協会